

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会 幹事 正田 遼平

科学技術と社会を繋ぐ多面的なものの捉え方 合格者交流会「見方を変える、真実を見抜く質問力」

近年のコロナウイルスの影響を受け、1年ぶりの開催となる合格者交流会を開催しました。今回は感染予防対策として、Zoomによるオンライン形式でワークショップを行いました。

皆さんは、仕事や学習をしている際に、「何を質問していいかわからない」、「直面している問題の本質が何かかわからない」などの状態に陥った経験はあるでしょうか。

本イベントでは、仕事等でこのような状況が生じた場合の解決（質問力や問題の本質を見抜く力を養う）の一助となることを目的として開催しました。

また、昨今、LGBTQやダイバーシティなどの多様性に関する言葉が日常的に用いられています。このような目まぐるしく変化する多様性への理解や寛容性が求められていることを受け、本ワークショップでは、合格者との交流を通じて、楽しみながら「多面的なものの見方」を養うことも目的としました。

以下に開催概要を報告します。

1. 開催概要

- ◆開催日時：2021年7月31日(土)13:00～16:00
- ◆開催内容：「nocobon」を活用した課題解決型グループワーク
- ◆開催方法：オンライン形式(Zoom)
- ◆対象者：令和元年度・2年度 技術士第一次試験・第二次試験合格者、若手技術者
- ◆参加者：会員/準会員：11名、会友：2名
一般/非会員：7名、合計：21名

2. ワークショップ

(1) 「nocobon」とは

「nocobon」とは、東京大学総合文化研究科監修

の「科学技術と社会」について学ぶために開発されたコミュニケーション型推理ゲームです。「科学技術と社会問題」に関する事実や事件などに基づいた問題をグループで協力しながら解き明かしていきます。

不思議なストーリーの謎(問題)は抽象的な表現となっており、質問や他人の意見を参考にしながら、自分の思い込みを取り除いていきます。このため、「科学技術と社会問題」を学ぶだけではなく、「質問力」、「推論力」、「考え方の柔軟性」が求められ、自分だけの考えに囚われず「物事を多面的に見る目」が養われます。質問は各グループの出題者に対し「はい」か「いいえ」で答えられるものに限り、制限時間内に何度でも行うことが可能です。さらに、出題者からのヒントを参考にグループ内で解答内容を話し合い、1つの結論を出して正誤を問います。

(2) グループワーク

参加者はZoomのブレイクアウトルーム機能で4組(4～5名程度/組)に分かれ、グループワークを行いました。各グループには出題者を1名配置し、問題の出題や進行を行いました。なお、本グループワークでは、他人の意見や考え方への理解を目的とするため、進行時にはメンバー全員がそれぞれ発言できるよう配慮しました。

当日は、時間の制限は設けない練習問題を3問程度行い、少しずつnocobonに慣れてもらいました。その後、ブレイクアウトルームのセッションを終了し、全体でグループ毎の解答や感想を共有しました。続いて、グループ対抗で問題の正解数を競う、タイムアタックを行いました。結果は全グループ全問正解でした。

ここで実際に出題された問題と質問をご紹介します

す。(「質問」/回答(YES:YまたはNO:N)、また正解は本文末尾に記載)。読者の皆さんもぜひ正解を考えてみてください。

【問題】ある化学物質が原因で毎年7,000人以上が死んでいる。ところが、この化学物質は規制されていない。なぜ？

【質問】「食べ物ですか？」/N、「生きていくために必要な物質ですか？」/Y、「その物質は液体ですか？」/Y、「死者数は日本の統計値ですか？」/Y

【ヒント】①この世の中にあるものは、すべて化学物質からできています。

②死因は何でしょうか。摂取のし過ぎが死因になりうることもあります。

③亡くなる前は、皆さんいたって健康でした。

全体共有では、「人によって観点が違うことを改めて痛感した」、「他人の質問がヒントになって積み上げ式で正解に近づく感覚が面白かった」などの感想をいただきました。

(3) アンケート結果

イベント後に、参加者にアンケート調査を実施し、感想等を把握しました。

そのうち、「本イベントへの満足度をお聞かせください」という設問に対して、大満足が86.7%、やや満足が13.3%であり、高い満足度を得られた結果となりました。

また、本ワークショップを通じて「専門分野でも、先入観を捨てて多面的な視点で捉えることの重要性を改めて感じた」などといったご意見をいただき、参加者の皆様に気づきのある有意義なイベントになりました。

また、「オンライン開催への満足度をお聞かせください」という設問については、大満足の意見が大半を占める結果となりました。今回、オンラインによるコミュニケーションを必要とするグループワークでしたが、トラブルなく円滑に進行することができました。

以上のような皆様から頂いた感想やご意見を踏ま

え、来年度以降も nocobon を活用したワークショップの開催を検討していきたいと思います。

3. 懇親会

ワークショップ後の懇親会には、青技交幹事9名、幹事の他に会友2名、一般5名の計16名が参加しました。

オンラインではありますが、若手技術者同士が久しぶりに交流できる機会となり、お互いの近況を報告し合うなど、親睦を深めました。

また、今回のワークショップをきっかけに、一般参加者から2名が新たに当委員会にご入会いただき、幹事発掘の機会となりました。

最後に、開催にあたりご協力をいただいた皆様、お疲れ様でした。また、ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



写真-1 ワークショップ後の集合写真



写真-2 懇親会の集合写真

【正解】その化学物質は水だから。2015年の統計によると、溺死・溺水による死者は年間7,000人以上であり、事故による死因の第2位です。しかし、水を規制することは人類の生存のためには現実的ではありません。